

森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート

プログラム名： 津山 森のようちえん ことこと		
(1) プログラムの目標	・身近な自然に親しむ。 ・日常的に自然との関わり合いを持たせる。 ・命の大切さ、つながりを知る。 ・自然の美しさに感動する豊かな心を持つ。 ・五感を使って遊び、体験し、学ぶ。 ・子ども達の生きる力、探求する力を育む。	
(2) プログラムの概要	津山 森のようちえん ことことは、平成29年（2017年）4月に開園した 岡山で最初の常設型森のようちえんです。11月から地元の森林ボランティア団体・木こりの会の活動フィールドを使わせてもらいながら、子どもたちと森の中で週五日活動しています。	
(3) プログラムの展開		
活動内容について、プログラムの流れで、記載する。 合わせて、段階的な学びとして、3つのタイプのアクティブ・ラーニング（in、about、for）の視点で活動内容を区分してみる。		
・ in（～の中で）－ 体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能） ・ about（～について）－ 情報収集・分析、情報交換、討論など（知識・技能、思考・判断・表現） ・ for（～のために）－ 提案、実践など（態度、参加・行動）		
時間数	プログラムタイトル 活動内容 指導・支援の方法、ポイント等（教材等） in、about、for の視点で活動内容を区分	
	森のようちえん 春（4月、5月、6月） 里山と仲良くなる  ・ 里山で自由に過ごしながら、植物・動物・気温・雨・日差し等を五感で感じてもらう。 ・ 里山の色々な場所に連れて行き、その場所と親しくなるきっかけを与える。 ・ 子ども達が自分たちで考えて自然と遊ぶことを優先するして、大人は子ども興味関心を観察する。 ・ 対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。 in－自然、森林に関する関心・意識を高める。	
	森のようちえん 夏（7月、8月） 川・水と仲良くなる  ・ 川で自由に過ごしながら、植物・動物・太陽の日差し・水の気持ちよさ等を五感で感じてもらう。 ・ 川で魚やカニと一緒に探して、川と親しくなるきっかけを与える。 ・ 子ども達が自分たちで考えて自然と遊ぶことを優先するして、大人は子ども興味関心を観察する。 ・ 対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。	

	森のようちえん 秋(9月、10月)	
	火と仲良くなる 	・焚き火をしたり野外炊飯をして、火と仲良くなる。 ・焚き火をマッチ一本から自分で作ってみて、上手に燃やすための手順を学ぶ。 ・火の危険についても、事前に十分に説明する。 ・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。
	森のようちえん 冬(11月、12月、1月)	
	雪と仲良くなる 	・雪の中で自由に過ごしながらか、雪の美しさ・冷たさ等を五感で感じてもらう。 ・雪遊びの中で雪と親しくなるきっかけを与える。 ・子ども達が自分たちで考えて自然と遊ぶことを優先するして、大人は子ども興味関心を観察する。 ・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。

(4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

1. 津山市役所 活動場所(久米山)を提供する。木こりの会の共同事業者として、木こりの会の活動資金を提供する。
2. 木こりの会 久米山の一部の森を森林整備する。
3. 津山 森のようちえん ことこと 森で幼児を預かり週五日活動する。4歳児未満の親子を対象にした森の親子広場を週2回開催する。

学習指導要領との関連 (例 小学校)	
1年	生活：身近な自然の観察、利用
2年	生活：生き物を育てる、成長
3年	社会：飲料水、地域の生活 理科：昆虫と植物（自然の観察、植物を育てる）
4年	社会：都道府県の様子・生活 理科：季節と生物（身近な植物の成長、季節による違い）
5年	社会：国土の自然・環境、国土保全 理科：植物の発芽、成長、結実
6年	社会：歴史上の事象、文化財 理科：生物と環境
総合的な学習	横断的・総合的な課題の学習、社会体験、討論・発表
特別学習	遠足・鑑賞、集団活動・生活
森林環境教育の視点	
1 感性的経験	感性的な内容 — 森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など
2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容 — 植物や動物の生態など
3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容 — 森林の働き、保安林など
4 現状・課題	森林の現状に関する内容 — 森林の荒廃、人手不足など
5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容 — 森林整備、育成、維持、管理など
6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史 — その土地での歴史、薪炭林、炭焼き

(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目				
教科・項目、視点		学習内容		
感性的経験		里山や川で日常的に過ごすことで、身近な自然環境を知る。 自然にどっぷりつかって、春・夏・秋・冬の自然の移りかわりをとおして自然を学んでいく。		
自然的特性		動物、植物をみたり、鳴き声を聞いたり、触れたり、観察しながら豊かな自然に触れる。		
多面的機能		森の木を使って焚き火をしてお昼ご飯をつくる。木をナイフで削ってお箸を創る。森から色んな恩恵を受けることが出来るということを知る。		
(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)				
E S Dの要素 (生きる力)	能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
		2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つながり尊重する態度
		3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
		4 コミュニケーションを行う力		
資質・能力 三つの柱		①生きて働く「知識・技能」の習得 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養		
次期学習指導要領では、持続可能な開発のための教育（E S D）等の考え方も踏まえつつ、「生きる力」とは何かを、「資質・能力」（三つの柱）に沿って具体化するとしています。 活動を、三つの柱の項目に再整理して記載をしてください。（該当がない項目は空欄）				
項目	E S Dの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。			
①生きて働く「知識・技能」の習得	里山で活動することで、動物や植物と仲良くなり そして関心・興味を持って知りたい思う土壌を作る。			
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	コミュニケーションを行う力 日々の活動の最初と最後に、皆で輪になってみんなの感じている事を聞き合う時間がある。その時間で、他者理解と自分自身の理解を進める、そして表現力を養うことが出来る。			
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	人工的に用意された遊び道具が無い里山では お友達と協力して遊びを創っていかないといけない。そのような環境で自分のやりたい遊びを実現する為に、子ども達は協調性や協力して何かを実現する事を身につけていく。			
(7) 実施後、参加者の変化				
<子ども> 自分たちで日々の遊びを考え、その時折にぶつかったり 協力しながら 自分たちの遊びを創り上げていく事により、自分たちで創造していく力、仲間と協力して行動するという協調性が成長した。				
<保護者> 自然の中で子どもと関わると、楽しい 安心できる いつもより落ち着いて子どもと接する心の余裕を感じた。その自然の力に驚きを感じた。				
(8) 安全対策として事前・当日の取組事項				
月一で防災訓練。危機対応マニュアルを作成。スタッフは定期的に研修に参加している。				
(9) プログラムの今後のめざす方向・展開				
子ども達のやりたい事に寄り添いながら、プログラムを発展させていきたい。 子どもの教育は地域の責任という考え方を地域に根付かせるために、地域と積極的に連携していきたい。 森林を教育資源ととらえて、学びの場として維持していきたい。				
(10) 現状での課題、質問事項など				
森林ボランティア団体（木こりの会）メンバーの高齢化 三者（津山市・木こりの会・森のようちえん）で描く未来の具体化 岡山県内の森林ESD（幼児期）活性化				